3. 大雨・突風などによる災害への備え

大雨・突風などによる災害から，どのように身を守ればよいのでしょうか。

知っておこう

大雨による災害からの身の守り方

局地的な大雨による災害から，どのように身を守ればよいでしょうか。

数十分という短い時間に非常に激しい雨が局地的に降る「局地的な大雨」は，道路や低地の浸水，河川の急な増水を引き起こします。2008（平成20）年7月28日，兵庫県都賀川が局地的な大雨によって急激に増水し，川で水遊びをしていた人たちが犠牲となりました。

都賀川の増水の状況

（出典：河川整備基金事業「2008年7月28日突発的集中豪雨による都賀川水難事故に関する調査研究」）

午後2時40分の水位 −0.33m

10分後

1m34cm 上昇

午後2時50分の水位 1.01m

局地的な大雨では，自治体が避難勧告などを出す時間がないおそれがあります。次のような異変を感じたら，ただちに避難しましょう。さらに，雷や竜巻から身を守ることにもなります。

- **川の近くでは，周りの空が真っ黒になったらすぐに避難する。**
- **雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する。**
- **大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難する。**
- **冷たい風が吹き出したら注意する。**
- **雨の日に周囲より低い位置にいる場合は，高い場所へ移動する。**

（写真提供:気象庁）

異変のきざし，積乱雲

考えてみよう

大雨による洪水などに備えた避難

台風などにより大雨が長期になる場合，洪水などのおそれがあります。2009（平成21）年，兵庫県佐用町の大雨では，夜間に自宅近くの避難所へ行こうとした中学生らが，濁流に足元をすくわれて犠牲となりました。そのため，避難場所まで移動することが危険だと判断されるような場合には，家の上階などに避難（垂直避難）することも考えられるようになりました。

気象庁が発表する情報をもとに早めに避難するためには，どのタイミングで避難すればよいのか考えてみましょう。

知っておこう

台風や突風などによる災害からの身の守り方

台風が接近すると風の強さで人が歩けなくなったり，建物の屋根瓦がはがれたり，看板がはずれたりしてとても危険です。また竜巻などの激しい突風が吹いた場合も外にいることはとても危険です。屋外に出るのをできるだけ避け，丈夫な建物の中に避難しましょう。

また，竜巻などの激しい突風は発達した積乱雲から発生するため，雷鳴が聞こえたら外出することは控えましょう。

防災知識　台風接近時に気象庁が発表する情報など

気象庁が発表する情報など				自治体（市町村）が発令する避難情報
	大雨の場合		強風の場合	
大雨や強風などに関する気象情報（警報・注意報に先立ち発表）				
注意報 災害が発生するおそれがあるときに発表	大雨注意報	洪水注意報	強風注意報	**避難準備情報**
警　報 重大な災害が発生するおそれがあるときに発表	大雨警報 （土砂災害，浸水害）	洪水警報 土砂災害警戒情報 記録的短時間大雨情報 ○○川氾濫危険情報	暴風警報	**避難勧告** **避難指示**
特別警報 重大な災害が発生するおそれが著しく大きいときに発表	大雨特別警報 （土砂災害，浸水害）		暴風特別警報	

※台風の場合，沿岸部では高潮注意報や高潮警報が発表されることもあります。
※注意報，警報，特別警報だけでなく，土砂災害警戒情報や記録的短時間大雨情報，指定河川洪水予報（○○川氾濫危険情報等）も大切です。
※避難情報が発表されるタイミングは市町村によって異なり，上記は一般例です。

（参考：気象庁「気象業務はいま」〔平成 27 年 6 月発刊〕資料を加工して作成）

知っておこう

大雪からの身の守り方

宮城県では，これまでにも大雪に見舞われることが何度かありました。雪が積もっているときは，次のようなことに注意して行動しましょう。

- **雪道を歩くときは手袋を着用し，手はポケットに入れずに，歩幅は小さくする。**
- **建物のそばを歩くときはつららがないか確かめ，その下は歩かない。**
- **川や水路，雪崩の起こる所には近づかない。**
- **雪が積もった所や坂道などでは転倒に注意する。**
- **除雪作業では頭上からの落雪に注意。滑りにくい靴をはき，ヘルメットを着用し，二人以上で作業する。**

話し合ってみよう

大雨などによる被害に備え，自分の地域で被害から身を守る避難場所がどのような所に指定されているか，調べて話し合ってみましょう。